

議会報告会 報告書

秦野市議会議長 横山 むらさき 様

文教福祉常任委員会委員長 福森 真司

開催日時	令和6年12月1日（日）午後4時30分から午後6時まで
開催場所	西公民館 集会室A及びB
出席委員	委 員 氏 名（ 役 割 ）
	福森 真司（1班進行・資料説明・全体進行） 間地 薫（2班進行・資料説明） 石川 潤（2班書記） 桑原 昌之（2班発表） 中村 知也（1班発表） 川口 薫（1班司会補助） 小菅 基司（2班司会補助） 横溝 泰世（1班書記）
参加者数	湯川 様（堀川小学校PTA副会長） 府川 様（上地区連合自治会長） 桐山 様（西商店会連合会長） 吉田 様（西中学校PTA会長） 江原 様（南地区自治会連合会副会長・八幡山自治会長） 三武 様（西小の森地権者） 佐竹 様（渋沢中学校PTA会長） 大塚 様（西幼稚園長） 飯沼 様（渋沢公民館長） 安藤 様（渋沢中学校長）
主な流れ	1. 開 会 2. 正・副委員長あいさつ 3. 常任委員会委員及び参加者の紹介 4. 議会報告 5. 議会報告の意見交換 6. 文教福祉常任委員会の政策提言について テーマ：安心して子育てできる環境づくりに向けて (1) 1班は福森委員長より、2班は間地副委員長より、これまでの協

	議結果を報告 (2)意見交換 7. 議会報告 8. 議会報告の意見交換 9. 発表 10. 閉会
内容 (話し合われた 課題や意見、所感 等)	【意見交換の内容】 正・副委員長の進行により、2班に分かれて、議会報告会及び政策提言に関する意見交換会を開催した。 意見交換では、現在、常任委員会で協議しているテーマについて、テーマ選出理由や本市の現状と課題について説明し、その後、各班で「新たな多世代交流拠点の施設を設けて多世代交流を行う」視点と、「既存の施設を活用して多世代交流を行う」視点の2つについて、それぞれ意見交換を行った。 【1班の発表内容・主な意見】 <u>(子ども会)</u> ・ 昔の自治会は多世代交流が盛んに行われていたが、現在は子ども会が衰退しており、子ども会の衰退は、自治会の崩壊につながることを懸念される。 ・ 南地区では、自治会単位ではなく、公民館を主体とした子ども会を立ち上げ、運営を青少年指導員が担うことで、保護者や自治会役員の負担を軽減し、子どもの交流の場の提供や新たな形の地域づくりを実現している、という事例報告があった。 <u>(ぽけっと 21)</u> ・ 各地域に子育て支援センターとして、ぽけっと 21 があるが、「ぽけっと 21 にし」など、中には駐車場が少ない場所もあるため、他の地域から来る方が使いにくい現状がある。また、ぽけっと 21 は、開館時間が 10 時のため、9 時からの開館にしてほしいという声や、緊急時（台風や急な休館など）の連絡方法について、SNS を活用するなど改革してほしい、という声があった。 <u>(中学生・高校生との関わり)</u> ・ 中学生や高校生が地域活動に参加することで、多世代交流がより活発になる可能性があるが、中学生のボランティア活動については、内申書へのポイント制度が廃止されたことにより、活動が減少している。地域の大人がサポートすることで、子どもたちの自主性や社会貢献意識を高められる可能性があるのではないか、という指摘があった。

(子どもの居場所)

- ・地域内に公園や広場が少なく、子どもの遊び場が少ないため、公民館や児童館の活用促進を求める、という要望があった。
- ・自然豊かな本市の特徴を生かした活動（自然体験、農業体験）を行い、子どもたちが遊び心を持って職業体験ができる場をつくることで、子どもたちが生き生きと過ごせるのではないかと、という指摘があった。
- ・学校の空き教室を、不登校児童生徒の居場所や交流の場として活用できるのではないかと、という指摘があった。

(その他)

- ・ハコモノを構築していくのではなく、ソフト面の充実をさせていくことが大切。

【2班の発表内容・主な意見】

(既存施設関連)

- ・はだのこども館について、知らない人もいるが、こども館の中にはぽけっと21や学習室があるため、幅広い層の子どもたちに利用してもらえる機能、環境が必要ということを確認した。
- ・公民館は、減免対象となる団体等もあるが、原則は利用料がかかるため、機能を充実させても使いにくいのではないかと、という指摘があった。
- ・松田町では、生涯学習センターで開催している寺子屋事業で、年間の予定を組んで、勉強だけでなく、ダンスやボルダリングができる講座が開催されているため、本市も公民館の空き時間を活用して行ってもよいのではないかと、という提案があった。
- ・市内には、各地区に既存の施設があるが、それぞれの施設によって課題があるため、把握してまとめていく必要がある。

(子どもの居場所)

- ・子どもたちからは、遊ぶ場所がないという声が大いということも確認でき、子どもたちにとっては、遊ぶ場所があることで、社会性を身につけることができるため、屋内の遊び場だけでなく、屋外での遊び場についても検証していく必要があることを感じた。
- ・新たな多世代交流拠点の施設を設けるという中で、図書館やカフェ機能とあるが、本市には本市の地形があるため、この地形にあった交流のやり方があるのではないかと。現在、学校運営協議会など、地域の人を巻き込んで、コミュニティ・スクールもできているため、そこから人のつながりをつくったほうが、本市には合っているのではないかと、という指摘があった。
- ・高校生の子どもに聞くと、学校が終わってから塾などの習い事に行

くまでに時間をつぶす場所が駅前にはない。ファミリーレストランやカフェなどもいいが、お金がかからず、いられる場所を作ってほしい、という意見があった。

- ・昔、家族が、雨の日に子どもが遊べる場所がほしいと話していたのが印象的だったという意見もあった。

(その他)

- ・こども館などの場所の問題もあるが、機能を充実させるという視点より、いかに利用しやすい環境、制度をつくるかという視点での指摘が多かった。

【正副委員長の所感】

(委員長)

参加者から、課題に対して活発な意見交換ができ、地域の方と顔の見える関係が築けたことで、今後、地域間で連携しやすくなった。一方で、時間が足りなかったなどの感想があったので、今後開催する場合は、議会報告会と常任委員会の政策提言協議を分けて開催することを検討事項として認識した。また、普段の活動では、市民が感じている現状、現場での意見を聞く機会が少ないため、様々な考え方を聞く良い機会になると感じたとともに、ファシリテーターの進行が会議をスムーズにするポイントだと改めて実感した。

今回、参加者から、様々なアイデアや課題解決策が出たので、今後の活動の参考とし、政策提言へつなげていきたい。地域が抱える課題は、共に助け合える方々がいることで、高いと感じていた壁や課題も乗り越えることができると信じている。

(副委員長)

参加者の話の共通点は、「子どもの居場所を既存施設で作るとしても、新たに作るとしても、使いやすさが大切であること」だった。例えば、公民館を活用しても、小学生は一度帰宅してからの利用となることや、子どもだけでの予約ができないなど、不便さが見られた。機能だけに注視するのではなく、併せて利用しやすい環境をつくることが重要と気付いた。

今回の意見を参考に、当常任委員会の政策提言テーマである「安心して子育てできる環境づくり」を、より実現性のある提言としていきたい。

最後に、福森委員長から閉会のあいさつがあった。